

# 「学びに向かう力」の測定指標開発と向上のための実践研究(月曜日学習会の活動を通して)

## 矢掛町月曜日学習会実行委員会

### 活動の目的

平成28年度より矢掛町と就実大学の連携の中で月曜日学習会を協働運営してきた。目的は小学校5、6年生と中学校1、2年生を対象に放課後の学習の場を確保することである。平成28年度末の時点で、以下の3点が指摘された(北川ら2017)。  
①参加児童生徒の学習意欲・習慣形成が課題。  
②時間内に集中した学習の継続が課題。  
③支援学生確保がへき地故に困難で、学生参加を促す有益な経験と参加学生が少なくとも支援できる方法の試行が必要である。以上の課題意識を受けてICTを活用した遠隔地模擬授業の実施法の開発を目的とした。これにより、指導学生にも児童生徒にも魅力ある学習の場を提供し、参加者全体の意欲向上と指導者が少なくとも効果的な学習支援体制を確保することをめざす。(日下公貴・佐藤福起、就実大学生)

### 活動の内容及び経過

参加者児童生徒数とその保護者アンケートでは自由記述的分析しか行えない。そこで、ICTの児童生徒への影響に関する調査を矢掛町内小中学校の協力で行った。(9月実施・10月分析) その調査結果を就実大学教員・学生側で精査しつつ、無料アプリケーションスカイプを用いた就実大学・矢掛町でのICT遠隔地授業の実践を行い、その評価・改善の検討を行った。(10月以降実施)(浦川優・平岡佐由理、就実大学生)

### 活動の成果・効果

学生リーダーのとりまとめにより、毎週2名の支援学生の派遣が1年間続き、教職志望の学生は岡山市や倉敷市の近隣でのボランティア等に従事し、往復2時間、2000円の移動コストがかかるが学生派遣継続は、「成功」であると評価したい。また、日本学校改善学会第1回大会において愛媛県や高知県の教育行政関係者から高く評価された。(佐藤・日下・高木2018)

矢掛町教育委員会を通じてのICT教育調査の結果から、教員主観による児童生徒のICTの学習活用も学校のICT活用状況の相互の高さも、いずれも児童生徒主観による、指導者・児童生徒間の関わりの高さにも負の相関が示された。つまり、ICTの学習支援への活用は対人的関わりの深さを阻害しかねない注意点が示された。この調査結果を留意しICTでの遠隔授業は学力向上や指導者の効率化・削減を避け、あくまで学習意欲の刺激と参加動機の魅力としての指導案作成を行った。その上で、音楽を通じた英語の親しみと体験を通じた科学・幾何学の親しみに関する遠隔授業を複数回実施した。(花房幹根、増成悠太、村上幸輝、就実大



学生)

### 今後の課題と問題点

本助成を通して、児童生徒には自学自習学習会参加継続を促す風土と学習刺激がえられ、支援学生には先進的な教育法の実践研究と技能習得期待で移動負担感よりも参加意欲を高めることに成功した。一方で、ICT活用の遠隔授業では派遣学生の縮小や学力の確保を担うことは難しいことが示された。今後は、児童生徒にも学生にも引き続き意欲をもって会を振興できる企画づくりと、学習意欲、参加動機促進のための遠隔授業の指導計画を構築していくことが課題である。(藤井将太・斧田佑紀奈、就実大学生)

- 代表者：日下公貴 ●所在地：小田郡矢掛町矢掛
- TEL：0866-82-2100
- E-MAIL：Yakage-boe@town.yakage.lg.jp
- 設立年：2016年 ●メンバー数：31名